

令和元年度 文部科学省委託事業「日独学生青年リーダー交流事業」

1. ねらい

ドイツの青年団や社会教育施設等でリーダーやボランティアとして活動する学生・青年が、文化体験、関係機関及び団体との意見交換や体験活動等を行うことにより、青年リーダーとしての資質を高めるとともに、日本とドイツの相互理解と交流の発展を図る。また、地域の協力を得ながら本事業を実施することにより、近隣地域における国際理解や国際交流に関する機運の醸成を図る。

2. 実施日（地方施設プログラム）

8月28日（水）～9月2日（月） 5泊6日

3. 参加実績

ドイツ団員15名、団長1名、通訳3名、機構本部職員1名
法人ボランティア15名、ホストファミリー9家族

4. プログラム（要約）

本事業での施設滞在プログラムでは、「若者の社会参画」について関係者とドイツ団との意見交換や漆クラフト等の日本文化体験、曾爾村内の小中学校訪問や奈良県内の施設で指導にあたる指導者との意見交換、青少年との交流を通して、互いの文化や取組への理解を深め、青年リーダーとしての資質を高めることができるプログラムとして構成した。

【スケジュール】

日時	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	(宿泊)	
8/28 (水)	【移動】オリピックセンター→近鉄奈良駅							昼食	奈良国立博物館訪問 仏像館見学	奈良公園探訪	夕食	移動	研究協議	意見交換会	移動	自由交流 入浴 ミーティング	就寝			奈良市内ホテル
8/29 (木)			【移動】奈良駅→自然の家	活動準備	曾爾村立曾爾小中学校訪問・交流			移動	法人ボランティア活動紹介 意見交換	夕食	入浴	自由交流	ミーティング	就寝						曾爾村小中学校の森
8/30 (金)	起床	つどい	朝食	活動準備	クラフト研修 (漆塗り体験)	移動	野外炊事	自由交流	イホム ホームステイ	【移動】自然の家→室生復興センター	対面式	ホストファミリープログラム							ホストファミリー宅	
8/31 (土)	ホストファミリープログラム ・ドイツ団15名が分かれ、宇陀市や名張市等に住む家庭に入り、日本文化にふれる機会とする																			
9/1 (日)	ホストファミリープログラム					歓送会	【移動】室生→自然の家	場所・団ミーティング	夕食	入浴	成果発表会準備 ・団ミーティング	就寝								曾爾村小中学校の森
9/2 (月)	起床	つどい	朝食	活動準備	成果発表会	昼食	出発式													大阪市内ホテル

○訪問「奈良国立博物館」

博物館におけるボランティア活動についての紹介からその役割を知るとともに、実際にボランティアの話を聞きながら、仏像館を見学し、仏教美術の魅力とその背景にある豊かな歴史・文化について学ぶことができた。

○意見交換会「大学生による奈良県内小中学校の学習支援サポートについて」

奈良県教育委員会事務局人権・地域教育課大学生塾コーディネーター松岡清之氏から、大学生による奈良県南東部の小中学校における学習支援サポートについての説明を受け、その後、質疑応答を行った。

8月29日（木）

○訪問「曾爾村立曾爾小学校、曾爾中学校」

第一部は、ドイツ団と曾爾ボランティアが、一緒に考えた遊びを通して、小学生との交流を行い、給食の配膳や食事の様子も見学した。

第二部は、中学校長や生徒代表から、「ふるさと学習」で取り組んでいる獅子舞や、菊づくりなどの地域連携、サマースクールなどの大学との連携について説明を受けた。

その後、お互いに質問を出し合ったり、生徒が作成した竹とんぼと一緒に飛ばしたりして交流を深めた。

○意見交換会「日独でのボランティア活動について」

曾爾ボランティアによる、自然の家での活動紹介の後、社会貢献活動に参加するきっかけや活動を通して、気づいたことや変容したことなどについてグループでのディスカッションを行った。全体交流では、「勇気を出して活動への一歩を踏み出すことが、自身の成長だけでなく、社会貢献への大きな一歩となり、みんなの笑顔につながる」、「多様な活動や考え方を認めることが大切である」などの意見が出された。

8月30日（金）

○体験活動「漆クラフト体験」

曾爾村地域おこし協力隊の並木美佳氏から、曾爾村における漆文化の歴史やその技術の継承についての説明を受け、日本の伝統文化に触れるとともに、漆を通して地域を活性化し伝統的な技法を受け継いでいこうと努力する並木氏の活動について学んだ。その後、箸置きと箸の漆クラフト体験を行った。

○体験活動「野外炊事」

曾爾ボランティアによる説明と支援のもと、自然の家を利用する学校団体や事業の参加者が実施する野外炊事を体験した。実際に食材を切ったり、火をおこしたりすることで野外活動における安全管理の方法について学ぶ機会となった。

8月30日（金）～9月1日（日）

○対面式、ホームステイ、ホストファミリーとの歓送会

内容：ホストファミリーと3日間を過ごすことで、日本の「家庭」に触れ、日本の様々な文化を知る機会となった。また、歓送会では、ホストファミリーからドイツ団への演奏のプレゼントや、ドイツ団の出し物が披露され充実した時間となった。

9月2日（月）

○学習成果発表会

日本滞在期間中の研修や人との出会いを通して、学んだこと、感じたことを発表した。その中で、ボランティアの育成や政治とボランティアとの関係について、ドイツ団の参加者が感じた日本との相違点や共通点が述べられるとともに、社会貢献活動に取り組む姿勢やアプローチの仕方など、多様な考えを認めていくことの大切さなどが述べられた。

5. まとめ

ドイツ団の青年と曾爾ボランティアとの意見交換や交流を通して、社会貢献に対する思いを共有し、互いの違いも知ることができた。また、今回の意見交換や交流が曾爾ボランティアにとっても大きな刺激となり、その後の活動への意欲につながった。さらに、曾爾小中学校はじめ多くの地域の方々の協力により多様な活動の中で交流の輪を広げることができた。しかし、日程が過密となり、意見交換や体験活動の時間に余裕がなかったこともあり、より充実した交流や活動にするためには、プログラム内容の精選が必要であると考え。



（企画指導専門職 曾和 良友）